

上智大学中世思想研究所企画

現代哲学の潮流

—— ドイツとフランスを中心に ——

20 世紀、とりわけドイツとフランスにおいて、人間存在への問いかけが新たにされます。現象学の登場を端に発して、価値哲学は倫理学に新たな基盤を与え、他者への問いと自己への問いは相互に響きあいつつ人間論を刷新し、存在の意味の再把握が解釈学と哲学的歴史観に奥行きを与えてきました。本講義では、この潮流を代表的な思想家のテキスト（和訳）に基づいて紹介いたします。哲学・哲学史の知識は前提としません。

講師：クラウス・リーゼンフーバー（上智大学名誉教授・同中世思想研究所元所長）

専門：中世哲学、西洋思想史

曜日・時間帯：水曜 19:00-20:30（全 12 回）

9/28	フッサール	—— 現象と自我
10/5	シェーラー	—— 価値の倫理学
10/12	ベルクソン	—— 時間と進化
10/19	ブーバー	—— 我と汝
10/26	マルセル	—— 実存体験と神秘
11/9	ヤスパース	—— 実存と限界状況
11/16	ハイデッガー	—— 現存在と死への先駆性
11/30	メルロ＝ポンティ	—— 経験の現象学的分析
12/7	ガダマー	—— 芸術と歴史
12/14	ウィトゲンシュタイン	—— 言語とその限界
12/21	レヴィナス	—— 他者と無限
1/11	バルトとラーナー	—— 理性の限界と超越

資料：講師からプリントを配布（無料）

参考書：クラウス・リーゼンフーバー著『超越に貫かれた人間』

（創文社、本体価格 2,500 円、ISBN: 4-423-30118-0）

* 定員に限りがございますので、お早目にお申し込みください。

受講料（税込）：32,400 円 連絡先：上智大学公開学習センター 03-3238-3552

* 当チラシは、企画元・上智大学中世思想研究所が作成したものです。